

有限会社朝霧牧場 環境活動レポート

平成 18 年 9 月 25 日

環境方針

人々の生活や生産活動から発生する有機性廃棄物を優良なコンポストに変え、農業振興発展及び緑化事業に寄与する完全循環型のトータルシステムにより、地球環境全体に貢献することを基本方針とする。

廃棄物の適正処理及び管理体制の整備を環境に配慮し企業活動を取組む。

環境法令遵守による廃棄物の更なる適正処理に努める。

有機性廃棄物から高品質コンポストを製造、販売し環境負荷の少ない農業振興及び緑化事業に努める。

管理体制を整備向上による適正管理に努める。

地域社会の一員として地域の環境保全に努める。

社員に対し継続的に環境に関する教育を行い、環境保全に関する意識の向上に努める。

平成 17 年 5 月 24 日 制定

有限会社朝霧牧場

代表取締役 箕 威頼

署名

箕 威頼

事業概要

(1) 事業所名

有限会社朝霧牧場

代表取締役 箕 威頼

(2) 所在地

静岡県富士宮市人穴 203 番地の 51

(3) 法人設立年月日

昭和 40 年 3 月 20 日

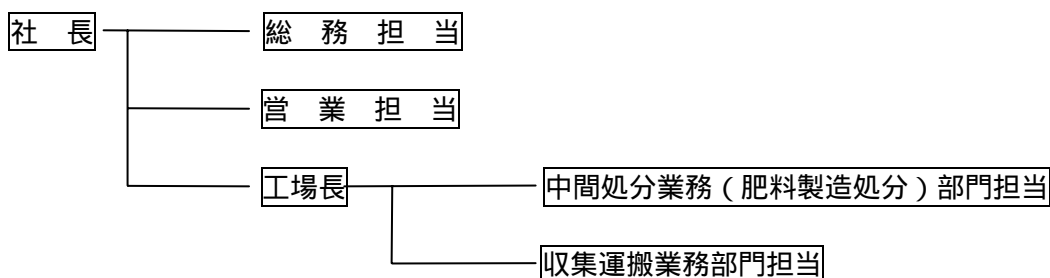
(4) 資本金

1000 万円

(5) 売上高

1 億 4 2 8 2 万円 (2005 年 2 月 1 日 ~ 2006 年 1 月 31 日)

(6) 組織図



(7) 敷地面積 44,000 m<sup>2</sup>  
サイト面積 4,700 m<sup>2</sup>

(8) 事業概要

産業廃棄物処分業  
中間処分 肥料製造処分

(9) 事業内容(年間)

汚泥処分量 10,242.06 t  
肥料製造量 1,050.00 t  
従業員 10名

(10)

A) 許可の内容

中間処分業に関する事業範囲

許可都道府県：静岡県  
許可の有効期限：平成22年11月20日  
事業区分：中間処分(肥料製造処分)  
産業廃棄物の種類：汚泥・廃油・動植物性残さ・動物のふん尿  
許可の条件：無し  
許可番号：2221035682

収集運搬業に関する事業範囲

許可都道府県：静岡県、静岡市  
許可の有効期限：平成21年5月6日  
事業区分：収集運搬(積み替え及び保管行為を除く)  
産業廃棄物の種類：汚泥・廃油・動植物性残さ・動物のふん尿  
許可の条件：無し  
許可番号：2202035682

許可都道府県：山梨県  
許可の有効期限：平成21年6月17日  
事業区分：収集運搬(積み替え及び保管行為を除く)  
産業廃棄物の種類：動植物性残さ  
許可の条件：無し  
許可番号：1900035682

B) 施設等の状況

・収集運搬業者

運搬車両の種類と台数

10 t ロールオン車	1 台
4 t ダンプ車	1 台
4 t ユニック車	1 台

保管施設がある場合はその面積と保管上限量  
保管設備無し

・処分業者

処分施設の種類

肥料製造施設

処分する産業廃棄物の種類

汚泥・廃油・動植物性残さ・動物のふん尿

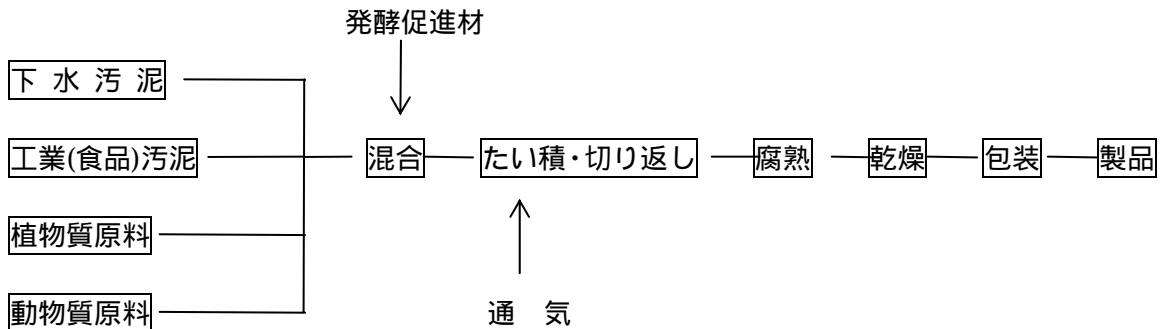
処理能力(規模)

- ・汚泥・・・・・・・・・・・・・・・・60.0 t/日(8.0時間)
- ・廃油・・・・・・・・・・・・・・・・2.0 t/日(8.0時間)
- ・動植物性残さ・・・・・・・・10.0 t/日(8.0時間)
- ・動物のふん尿・・・・・・・・8.0 t/日(8.0時間)

処理方式

汚泥、廃油、動植物性残渣、動物のふん尿等を受け入れ、高速醗酵システム及び重機を用いて混合、一次醗酵、二次醗酵を実施する工程にて中間処分(肥料化製造処分)を行い肥料を製造し売却する

処理工程図



C) 処理実績

汚泥	8934.37 t
廃油	11.34 t
動植物性残さ	1186.35 t
動物の糞尿	110.00 t

( 1 1 ) 廃棄物処理料金

・ 収集運搬料金

種類、量、距離により算出いたします。当社担当 箕 までご相談ください。  
無料にてお見積もりいたします。

・ 中間処分料金

種類、量、廃棄物物性及び、当社にて行う醗酵分析結果により算出いたします。  
当社担当 箕 までご相談ください。1 k g 程度のサンプルを頂ければ、無料にて  
醗酵分析を実施しお見積もりいたします。

( 1 2 ) 環境保全関係の担当者連絡先

担当者 箕 威頼

連絡先 電話 : 0544-52-0212 FAX : 0544-52-1122

e-mail : t-mino@asagiri-f.co.jp

## 環境目標とその実績

当社は以下の目標を掲げて環境活動に取り組みます。

2005年度(2005年2月1日～2006年1月31日) 環境目標

環境目的	環境目標	実績	環境目標	環境目標
(中期目標)	(2005年度) 2005年2月～2006年1月	(通年)	(2006年度)	(2007年度)
1 受入廃棄物処分量の拡大 04年度比07年度までに10%増	04年度比3%増	04年度対比 1 15.27%増	04年度比8%増	04年度比12%増
2 総排水量を受入処分高比5%削減 04年度実績に対し07年度までに	04年度比1%減	流量計未設置	04年度比3%減	04年度比5%減
(受入処分高1億円当たり)				
3 CO <sub>2</sub> 排出量受入処分高比3%削減 04年度実績に対し07年度までに	04年度比0.5%削減	04年度対比 13.13%削減	04年度比2%削減	04年度比4%削減
(受入処分高1億円当たり)				
4 力率改善設備の設置 大型電動機を対照に順次実施	今年度更新計画の策定	進行途中	混練り	混練り
5 悪臭及び騒音に対する排出基準に対し自主基準を設定	05年度中に設定	悪臭:アンモニア 5ppm に対し 4ppm 騒音:昼間 55dB に対し 4dB		
6 フロン拡散防止処分の徹底	エアコンの更新、廃棄時の適正処分委託	更新無し	エアコンの更新、廃棄時の適正処分委託	
7 環境コミュニケーション管理方法の確立と推進・維持	事故緊急時連絡体制表の見直し	対応済み		
	外部への情報開示	対応済み		
8 環境保全活動の推進と委託先への指示の徹底	日常点検リストの作成	未達		
	請負先への情報伝達	達成		
9 環境教育・訓練プログラムの確立と推進・維持	教育訓練計画の作成	教育2回実施		
10 社会貢献活動の推進	製造コンボスの提供によるリサイクルの啓蒙	対応済み		
	・web site での情報提供	公開中		
	・現場見学の実施	31回実施		
11 肥料効果の実証実験	実験農場での実験推進	継続中		

### 主要な環境活動計画の内容

- (1) 総給排水量の削減  
フローレススイッチの設置による節水の推進
- (2) CO<sub>2</sub>排出量の削減  
設備の有効稼働促進と受注の拡大
- (3) 排水基準に対する自主管理基準の設定  
悪臭(アンモニア)及び騒音(昼間)に対し自主基準を設定

( 4 ) 社会貢献活動の推進  
製品コンポスの啓蒙促進  
website での情報提供

( 5 ) 実験農場での実証実験  
東京農業大学との成果発表

活動計画の取り組み結果の評価

( 1 ) 受入廃棄物処分量の拡大  
前年同期比 15.27%増 (2005 年度通年)

目 標 達成

取組内容 組営業案件が集中的に重なり、目標に達成した。スポットでの受入量の増加が今期在った為、経常的な拡大と見ることは難しい。しかし、伸び率が高かった為、来期の目標設定を若干上方修正する。

( 2 ) 総排水量を受入処分高比5%削減

目 標 流量計未設置

原因対策 流量計設置工事がずれ込み今期に工事が完了しなかった為 未達成となった。

( 3 ) CO2排出量を受入処分高比3%削減

前年同期比 13.13%削減(2005 年度通年)  
(受入処分高 1 億円当たり)

目 標 達成

取組内容 受け入れ廃棄物処分量の拡大により、受入処分高 1 億円当たりの相対比較で CO2 の削減を達成。スポットでの受入量の増加が今期在った為であり、経常的な拡大と見ることは難しい。しかし、伸び率が高かった為、来期の目標設定を若干上方修正する。

( 4 ) 力率改善設備の設置

目 標 達成

原因対策 現状力率測定を実施。

( 5 ) 悪臭及び騒音に対する排出基準に対し自主基準を設定

目 標 達成

取組内容 悪臭:アンモニア 5ppmに対し 4ppm

騒音:昼間 55dB に対し54dB

自主基準の設定により環境法令の遵守に勤める。

( 6 ) フロン拡散防止処分の徹底

目 標 該当無し

原因対策 該当するエアコン、冷蔵庫の更新が無かった為目標達成は該当無し。

( 7 ) 環境コミュニケーション管理方法の確立と推進・維持

目 標 達成

取組内容 環境方針、環境活動レポートを会社受付に設置。緊急時対策教育を全社員に実施。

( 8 ) 環境保全活動の推進と委託先への指示の徹底

目 標 達成

原因対策 環境活動レポートを HP に公開。啓蒙活動用コンポスの無料配布を実施。

( 9 ) 環境教育・訓練プログラムの確立と推進・維持

目 標 達成(教育2回実施)

取組内容 環境経営マニュアル内容の説明を全社員に実施。緊急時対策教育を全社員に実施 今後も継続して教育を実施。

(10) 社会貢献活動の推進

目 標 公開中

取組内容 ライブカメラによる処分施設の公開(処分状況の透明性の確保)

(11) 肥料効果の実証実験

目 標 継続中

原因対策 東京農業大学富士農場での実験データ取り終了。公定分析実施完了。

環境関連法令への違反、訴訟等の有無

廃棄物処理法、肥料取締法等に関し、違反は無い。又、違反等の指摘は無く、かつ訴訟等も無かった。